ＴＩＣＯニュースレター　2006年3月発行

Face to Face NO.7

特定非営利活動法人ＴＩＣＯ

救急救助隊洗浄ベイ開所式（中央左が八林氏、右が吉田代表）

救急救助隊整備プロジェクト

クリーンルームおよび洗浄ベイ建設に寄付

（株）国際協力出版会の支援の下、進められてきたクリーンルーム及び洗浄ベイの工事がほぼ終了し、2006年２月１日には、使用開始式を簡単に催しました。この支援をとりもっていただきましたＪＩＣＡの方に臨席いただき、ＴＩＣＯからは、マラリア研修のためザンビア訪問中の吉田代表が出席しました。

今後、クリーンルームと洗浄ベイの使用方法に関する指導を、ボランティア救急隊員に行う予定です。クリーンルームの使用により、２次感染を大きく抑制することが可能となります。ありがとうございました。

大雪の中のチャリティコンサート

ヒダノ修一＆時勝矢一路さんのご協力を得て

昨年12月18日、恒例になったヒダノ修一さんによるチャリティコンサートが行われました。前日の大雪の影響が残る中で開催されましたが、たくさんの方に来場していただきました。

コンサート会場では、ＴＩＣＯの活動のパネル展やアフリカ民芸品のチャリティバザー、募金が行われました。

皆様のご協力のおかげで盛況のうちに無事終了いたしました。

■会計報告　　収益金　434,238円

※収益金はザンビアとスリランカへの救急車・消防車輸送費用に使わせて頂きます。

本当にありがとうございました。

コンサート会場でのＴＩＣＯの活動のパネル展

＜主な記事＞

- ***救急救助隊整備プロジェクト　洗浄ベイ開所式***
- ***大雪の中チャリティコンサート***
- ***ザンビア事務所にNew Face（西口三千恵さん）***
- ***カルブウエ地区菜園プロジェクト　～枝豆で高収入！～***
- ***チペンビプロジェクト情報　～養豚プロジェクト・豚舎建築中～***

TICO（ティコ）は保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っているNGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために1993年に任意団体として設立、2004年９月に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

マラリア再考

吉田　修

１００万人の都市を毎年一つか二つ原子爆弾で壊滅させることを想像してほしい。マラリアはまさにそういうものである。

私も、福士さんも、五十嵐さんもマラリアに罹ったことがある。青年海外協力隊の同期はザンビアでマラリアで亡くなった。ユニセフの発表では、世界で年間３億～５億人が発症し、100～300 万人が死亡する。その多くは１歳までの子供であり、ほとんどはアフリカである。病院に来られない人も多いので正確な数は不明である。

大変恐ろしい病気であるが、数百円で予防も治療も可能な病気でもある。もし日本で簡単に予防も治療もできる病気で子供が死んだら、大変な事件になり誰かの責任が問われ、数千万円の賠償金が要求されるだろう。このような病気でこれだけ多くの子供が誰からも手を差し伸べられることなく死に追いやられているという事実は、何を意味するのか？　医学の敗北か、国際協力の失敗か、人類の平和共存などは幻想なのか？

非常に悲しいことである。そしてもっと悲しく残念なのは、豊かな国の人々がほとんど関心を示さないことである。特に、医療に携わる人間が無関心で、高度医療には向かっていくが、基礎的な医学を人類全体に広げようと努力しないことである。

ユニセフが進めるマラリア対策の柱は次の４つである。

１）　早期の適切な治療を可能にする
２）　効果が持続する殺虫剤処理された蚊帳の普及
３）　妊婦検診時の予防薬の服用
４）　大流行への対応

日本は２０００年の G8沖縄サミットで感染症対策に貢献することを約束している。日本のNGOとしても、感染症対策に本格的に取り組んでいくべきである。TICO としても、ザンビアでの WAHE プロジェクトの H（health）にマラリア対策も加えていきたい。

<u>＊TICOは資金的に厳しい状況です。人材と場は整っています。救える命がそこにあります。生活に余裕のある方はぜひ資金協力をお願いします。</u>

江橋裕人さんザンビア離任挨拶

この度ザンビアより帰国いたしました、江橋です。けが病気無く３年間健康に過ごせたことはひとえにザンビア事務所スタッフ、私が在任中ご一緒させていただき今は活躍の場を移された方々、国内スタッフ、TICO 支援者皆様のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。特に TICO 本部皆様、ザンビア事務所で手取り足取りご指導いただいた五十嵐様には感謝の言葉もございません。

振り返れば長いようで短い時間でした。現場でザンビア人と多く接してきた気もしますが、同時にザンビアの一面しか知らないとも感じます。３年間滞在したからザンビアは分かっているという顔はできません。まだまだ謙虚に働かなくてはと強く感じます。

この３年間は TICO 農村開発プロジェクト（名称 WAHE、カルブウェとチペンビでの活動）開始時期であり、同時に、保健分野に力を入れてきた TICO には大きな挑戦の時間でした。そんな中、微力ではありますが、今後の TICO 農村開発プロジェクトにおける基盤を作り、希望と可能性を広げることはできたでしょうか。自ら切り開いた地を去る寂しさはありますが、後に続く若者がより良い活動、ザンビア人コミュニティーの為に尽くせる、TICO 本部や支援者の方々にも納得していただけるものを作り出せると信じています。

次期プロジェクト準備故の離任は少々残念ではありますが、いかなる場所でも全力を注ぐ所存です。今後、原稿執筆時で時期未決定ですが、TICO/WORLD VISION コンソーシアムによる HIV/AIDS 対策プロジェクトでマラウイ派遣予定です。アフリカの為に尽くす新たな機会が与えられることに感謝で一杯です。自分の未熟さをわきまえつつ、ザンビアでの貴重な経験と共に、新たなる地でアフリカの方々の為に尽力させていただく所存です。３年間ありがとうございました。

西口三千恵さんザンビア着任挨拶

TICO 支援者の皆様、はじめまして。このたびザンビア事務所に新しく着任いたしました西口と申します。

昨年末の 12 月 22 日にザンビア入り、あっという間に二ヶ月が過ぎました。アフリカとはいえ標高の高いザンビアでは、昼間はやはり強い太陽が照り付けていますが、朝晩は涼しく、とても過ごしやすい気候です。「アフリカ＝暑い」と考えていた私にとって、この朝晩の涼しさは小さな驚きでした。気候のみならず、日々の生活の中で出会う日本との様々な違いに、驚きの連続です。ここザンビアでは、時間は非常にゆるやかに流れています。全てが決まった時間に動く日本で育った私には、面食らうこともたびたびですが、ゆったりとした時間の流れに合わせたように、人もみなのんびりと大らかに暮らす様子をみると、私たちももう少し緩やかに生きてもいいのかなという気持ちになります。

でも、穏やかな時間と人の流れの内側には、この国が抱える多くの悩みが隠れています。事件、事故の多発、高い子供の死亡率、貧しさとの戦い、HIV/AIDS、数え上げるときりがありません。それでも明るく生きる人々を見ていると、その強さに感心すると共に、彼らにはまだまだ隠れた力があるんじゃないかという気持ちになります。こんな明るく強いザンビアの人々の、少しでも力になれればと願いつつ、毎日を過ごしています。

TICO のプロジェクトサイトでは、長年の関わりの中で少しずつ、少しずつ変化が訪れています。カルブウェでは、昨年導入した灌漑設備を使って、いよいよ今年は通年通しての野菜生産を軌道に乗せたいと皆頑張っています。チペンビでは、TICO が支援した薬浴槽リフォームのお陰で、使われなくなっていた牛の薬浴槽が復活し牛の病気が減りました。ひとつひとつは小さな活動でも、いつかそれが地域全体の生活の底上げになることを信じ、これからこの地で、TICO の一員として頑張っていきたいと思います。

皆様、どうぞこれからも TICO の活動を応援して下さい。よろしくお願いいたします。

WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所　江橋裕人　西口三千恵

WAHE（ワへ）とは？

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウエに決定した。

ザンビア共和国

カルブウェ

菜園プロジェクト

井戸ポンプの故障は、井戸そのものが原因。結局、約５０万円を投じて新たな井戸を掘ることになる。トマト、オクラなどの野菜が収穫期を迎えたが、次々と問題が発生。

１１月２１日（月）

菜園視察。トマトの誘引作業とベルベットビーンズ（ハ升豆）準備も３割完了。しかし、一週間で進んだのはこれだけ。少々がっかり。

１１月２５日（金）

トマト収穫。一箱にもならない。品質も良くない。オクラは１０キロあったが、大きすぎて売るのにふさわしくない。売れるのは半分だけ。

１１月２９日（火）

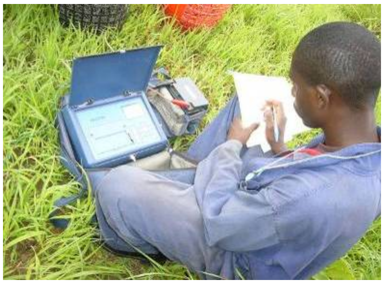
ワークショップ視察。終了後、野菜の品質について討議。品質が低く顧客からクレームが来ているので対応を促した。

１２月１６日（金）

２本目の井戸の掘削開始。６０メートル掘ってもダメ。ドライホール（水が出ない）だ。がっかり。調査しても水が出る確率は半分と聞いてはいたが…。

１２月２２日（木）

サイティング（井戸水脈のある場所調査）のため訪問。



鉄棒を地面に数十センチ刺し電気を通して、その反応で地下水の存在を探るらしい。機械は日本製だった。

12 月 30 日（金）

この日から新職員の西口がカルブウェ報告。定例ミーティング。カルブウェ在住の澤口氏に挨拶し、ミーティングに参加。途中、菜園視察。ソーラーパネルやドリップイリゲーション（灌漑システム）を自分の目で見た。実際にその前に立ち緑の畑を見ると、カルブウェ農民と江橋さんの一年半の努力が慮られる。

在住日本人向けに栽培委託している枝豆も大きくなり、もう少しで食べごろになる様子。

ミーティングの最後に、これからカルブウェのプロジェクトを担当する事を伝える。すると

「Mr．江橋はいなくなるの？」「もうここには戻ってこないのか？」との質問が。江橋さんのカルブウェでの存在の大きさを実感。

２００６年１月５日（木）

新たに掘削を予定している井戸だが、掘っても水が出る確証はない。これ以上、一か八かの投資は出来ないと悩んでいたところ、とある企業の方より壊れた井戸を修理する案を頂き、早速現地調査。

一度は諦めたこの井戸が復活できると思うと、希望が見えてきた。暑い中、快く足を運んでくださったことに感謝。

１月12日（木）

例の企業の方が再利用可能かチェック。昼前までずっと水を掻き出したが、ヘドロばかり出てくる。

対策として、井戸の底から 10 メートル砂利を入れることに決定。雨の中、企業の方と従業員３人、澤口さんとケニス、江橋さん、西口の８人で作業を５時まで行う。

１月１３日（金）

井戸調整業務とワークショップ視察。井戸掃除は約５時間。細かい砂が残るが、ポンプを壊すレベルではない。何とか使えそうだ。ただし、飲料には適さない。

ワークショップは、講師はいたがメンバーは三人だけ。１１時３０分まで待って５人で開始。トピックはジャガイモ栽培。

１月 16 日（火）

枝豆を獲りに畑へ。在住日本人へ１ｋｇが５万クワチャ（約１４００円）で売れると聞き、大喜びで収穫。今後も定期的に日本人コミュニティに提供し、他の野菜の販売ルートを作れればと思う。また、この売上を使い、モチベーションの落ちているメンバーの奮起を促せればと考える。

１月 20 日（金）

ワークショップのため訪問。９時から始まるはずのワークショップだが、講師のムシアニ氏しか来ておらずがっかり。結局 ７ 人になった時点で開始。メンバーの志気が落ちていることは確実。何らかの対処が必要だ。

枝豆はセールスのおかげで予約が 10 キロ。余裕を見て 15 キロ程を収穫したが完売。現在ま

で約 29 キロ、130 万クワチャ（約４万円）の売り上げ。驚きの数字。

１月 27 日（金）

定例ミーティング。キャベツの苗が植え付け予定地の面積に対し約３倍もあることが報告。高い種のため、すべて栽培するしかない。これではキャベツばかりができてしまう。

やはり自分たちでお金を出していない種はこういう扱いになるのかとがっかり。次回種蒔きは、この教訓を生かしてほしい。

でも、悪い事ばかりではなかった。ワークショップやこのようなミーティングには TICO から昼食代を支援しているが、自分たちのミーティングの昼食代は自分たちで出すと、リーダーのケニスが決めた。ミーティングはほとんどが現地語のため詳細には解らないが、ケニスは一生懸命メンバーの意識啓発を促している様子。彼の意識が、いつかは他のメンバーにも浸透する日がくればと思う。

本日は枝豆収穫、最後の日。18 キロ近く収穫、全て完売。枝豆収量は総計約 46 キロ。売上は 200 万クワチャ（約６万５千円）を越えた。

現時点でカルブウェ共同農園グループの現金貯蓄が約 25 万クワチャ。これと比べると、枝豆売上額の驚異的なことが実感できる。枝豆を育ててくれたメンバー5 人へ謝礼（一人 5 万クワチャの予定）をし、残りはメンバーのやる気回復に使いたい。

チペンビ
・農村開発ローン

小規模農村開発ローン

現行の小規模事業にはすべて日本人サポーターが付きました。中には返済を終了し、自立に向けてスタートしたグループも。

１１月１６日（水）

Ｍｒ.ンジョブ訪問。豚舎の建築資材は７割方確保完了。チティべの古着販売も順調の様子。

カリケンカ訪問。仕入れはされたようで商品が沢山あった。

ギルモア訪問。最後の返済完了。

１１月２３日（水）

Mr.ンジョブ訪問。養豚状況確認。12 月中には豚舎完成見込み。

カサカ訪問。二回目のお礼状作成依頼。100 羽完売とのこと。

カリケンカ訪問。お客さんも来ていたし、きちんと対応していた。大丈夫そう。

１１月２８日（月）

カサカ訪問. 雛を届けたが、コミュニケーション不足のため、カサカと TICO の注文が重なり合計２０７羽を育てることに。

Mr.ンジョブ訪問。豚舎現場視察。クリスマス後にワークショップ開催し、１月には動き出せるよう指示。

１１月３０日（水）

カサカ訪問. ２０７羽中２羽死亡。１羽弱っている。大切な時期なのでどうにか乗り切って欲しい。

チティべ訪問. 雨季なので畑が忙しく店は営業していない。

１２月７日（水）

養豚チーム訪問。メンバー４人全員とミーティング。目標を再確認。

カサカ訪問。ニューキャッスル病ワクチン渡す。この病気で９羽死亡。

ギルモア訪問。最後のお礼状を受け取る。今後、チペンビ中心部にある教会と協議し、そこでの幼稚園運営を考えている。

カリケンカ訪問。１１月分徴収。きちんとやっている。

１２月１４日（水）

Mr.ンジョブ訪問. カサカからの二回目のお礼状確保。

カサカ訪問。鶏は元気。頑張っているので、ご褒美として（株）帝人ファイバーから寄贈して頂いた防虫衣料を配布。

チレンガレサ訪問。ひまわり油購入のため空き瓶を渡す。今後のひまわり準備について尋ねる。

カリケンカ訪問。近所で葬式とのことで本日は休業。

12月21日（水）

ツェツェ訪問. 子供達に帝人からの防虫衣料を配って写真撮影（裏表紙参照）。

カサカ訪問。養鶏場の藁が濡れている。雛には良くない。以前から指摘されているが、改善されていない。

カリケンカ訪問。品薄。本日ルサカに買出しに行っているとの事。

2006年１月４日(水)

Mr.ンジョブ訪問. 古着販売に関する報告. 養豚予定地確認。新規申し込みローンに関する確認。

カサカ訪問。190 羽飼育中、いかにして完売するのかが重要。

カリケンカ訪問。近くに商売敵が現れた. 是非とも奮起してほしい。

1月11日（水）

カサカ訪問. TICO で取りまとめた注文 33 羽を購入。

Mr.ンジョブ訪問. 新規案件で牛肉販売業のグループメンバーと来週会うことに。

1月18日（水）

養豚場訪問. 全て資材は揃った。あとは建設するだけ.

カサカ訪問. ローン返済、最初の 200,000 クワチャを受け取る。

新規案件牛肉販売. グループメンバーとミーティング. 店の予定地はマーケットの隣りで、立地条件は悪くない。

1月25日（水）

Mr.ンジョブ訪問. 豚舎の壁が半分程度出来ている。

チティベ訪問。古着のみではほとんど売れないため、古着以外の品物を販売開始したとのこと。

カサカ訪問。190 羽を完売。次の雛 102 羽も滞りなく購入。自分たちの活動にずいぶん自信とやる気が出てきたようだ。

新規案件牛肉販売。リーダーの女性は英語も話せ、メンバー間の意思統合もできている。今までにない案件だが、ローン支給を決定。

新規案件菜園事業。メンバーとミーティング。もう少し考える必要あり。

1月31日（火）

養豚。豚 5 匹分の小屋はほぼ完成。木曜日に豚のエサをルサカで購入。

チティベ訪問。第１回目のローン返済。経理簿は一冊のノートにまとめるようにアドバイス。

カリケンカ訪問。江橋さんが最後と聞き、多くのメンバーが待っていた。

カサカ訪問。一羽の死亡もなく順調。

アグロフォレストリー

事業に参加している農家の中からベスト５を選出、彼らをモニター役とし、周辺農家の生育状況などを報告して貰うことにした。

１１月１６日（水）

Mr.クムウェンダ訪問。モニターたちへの備品として、ノートや雨具を渡す。

１１月２３日（水）

Mr.クムウェンダ訪問。アグロフォレストリー今後を相談。モニター謝礼は払わないが、代わりに自転車を貸与。とても喜んでくれた。CFC で増やしたテフロジアをモニター達にお願いし、本日から農民へ配布。すぐモニタリング開始するよう指示。Mr.クムウェンダを通じて全体の報告を TICO がもらうことになる。１２月には農業関係リサーチ機関に販売相談、２月にはワークショップ開催予定。

12月21日（水）

Mr.クムウェンダ訪問。モニター宅を訪問し進展状況を確認。すでに植えたか、畑の準備状況、問題点チェックなど。80 人の農民を 5 人でモニターする体制。総括は Mr.クムウェンダ。

２００６年１月１１日（水）

CFC 農場訪問。昨年ベルベット・ビーンズとグラウンドナッツを植えた畑で今はメイズを栽培中。非常に良く育っており、しかも肥料は一切使わず。

モニタリング担当農民宅訪問。ある農民宅は地質が砂質でメイズの育ちが良くない。彼は熱心に取り組んでいるので気の毒だ。

1月31日（水）

Mr.クムウェンダ訪問。前回訪問できなかったモニター農民の状況を確認。砂地の土地を持つ農民への対応策を確認。

ディップタンク（牛の薬浴）

壊れたまま放置されていた牛消毒用の薬浴漕（ディップタンク）の復活も最終段階に。カノンゴディップタンクついに完成！

１１月１６日（水）

今週金曜日からディップ開始なので確認。

１１月２３日（水）

先週金曜から供用開始なので、その確認。無事薬液を混ぜて始まった模様。１６１頭。周知に伴って数は増える見込み。毎週金曜日がディップ日。

12月21日（水）

Mr.テンボと協議。ワークショップを１２月２８，２９，３０日とする。

２００６年１月４日(水)

年末のワークショップが人の集まりが悪く中止。ンジョブの話では、本日から三日間行われているはずとのこと。

1月11日（水）

先週のワークショップ参加者がメンバーの約半分。テンボが呼びかけ、ワークショップを再度行う予定。

ＥＲＴサポートカード（命の回数券）ってなに？

あなたの募金によって、貧しい人達が救急車を使えるシステムです！

このシステムは、先進国に暮らす私たちが、ザンビアのボランティア救急救助隊の出動費を一部負担することによって、貧困の中苦しい生活を強いられているザンビアの人々の健康と福祉に寄与しようというものです。一口 5,000 円で購入いただいた回数券代は、ザンビア・ルサカ市のボランティアが運営する救急救助隊の利用料（一回約 500 円）を支払うことのできない、貧しい人たちの搬送費に充てられます。あなたの 5,000 円で、ザンビアの貧しい人たち１０人が無料で救急車を使うことができます。

命の回数券は写真のとおりカード型になっています。回数券をご購入後、１～２週間でお手元に届きます。カード右下にある番号が回数券番号となり、随時更新されるブログ上（http://ticozm.exblog.jp/）で、その使用状況が閲覧できます。

回数券が使用されるルール

ルール１：飲酒運転による事故の加害者には使いません。
ルール２：貧困地区に住み、親類などから経済的な支援を受けられない家庭のメンバーには優先して使います。
ルール３：交通事故などで子供が怪我をした場合は優先して使います。
ルール４：喧嘩による怪我人には、回数券を使いません。

<u>一口 5,000 円で、１０回の無償搬送を支援できます</u>

回数券カードの購入方法

郵便振替口座　０１６４０－６－３７６４９
振込先加入者名：ＴＩＣＯ

カード購入者として登録いたしますので、住所･氏名･連絡先･通信欄に「ERT カード希望」とご記入の上、お振り込み下さい。

活動に関する問い合わせはＴＩＣＯ本部にお願いいたします。

TICO 国内活動

（2005年１１月１６日～2006年１月３１日）

＜２００５年１１月＞

１６日　日本救急救助技術支援会（ＪＰＲ）設立総会出席（吉田修代表・福士事務局長）
１７日　徳島県と県内 NGO 団体の意見交換会に出席
１９日　地球人カレッジ「クズによるピナトゥボ火山爆発被災地の緑化とアエタ族の自立支援」（講師：津川兵衛氏）
２２日　第３回外務省主催 NGO 研究会（マラリア対策）参加（吉田修代表・田淵幸一郎会員）
２６日、２７日　第４回外務省主催 NGO 研究会（マラリア対策）参加（吉田修代表・田淵幸一郎会員）

＜２００５年１２月＞

7日～１８日　FASID 主催 NGO スタッフ対象「参加型プロジェクト形成」国内・海外研修に参加（西口三千恵さん）
１１日　とくしま NPO フォーラム分科会で講演（吉田修代表）
１８日　ヒダノ修一チャリティーコンサート開催
２０日　西口三千恵さん　新スタッフとしてザンビア事務所へ赴任

＜２００６年１月＞

１９日　佐那河内中学校へ講師派遣（吉田修代表）
２０日　「NPO 会計・税務の初歩講座」参加（中野貴志さん）
２１日　地球人カレッジ「まちに森をつくる　～里山の家の実践～」（講師：野口政司さん）
２８日～２月６日　外務省主催 NGO 研究会（マラリア対策）海外研修（ザンビア）に参加（吉田修代表・西口ザンビア職員）

地球人カレッジ報告

「クズによるピナトゥボ火山爆発被災地の緑化とアエタ族の自立支援」

（１１月１９日）

元神戸大学農学部教授で葛（くず）の研究家である津川兵衛さんを講師に迎え、先生ご自身も関わった、フィリピン・ピナトゥボ火山被災地の緑化事業を紹介。次に世界遺産イフガオの棚田保全活動の様子もご紹介していただきました。

活発な意見交換が行われ、参考となる内容でした。

「まちに森をつくる　～里山の家の実践～」

（1月２２日）

一級建築士で「NPO 法人里山の風景をつくる会」理事の野口政司さんを講師に迎え、街に住む人たちが川の上流の森を保全するために何が出来るか話していただきました。

前半は同法人が行った吉野川源流ツアーなどの活動、後半はフィンランドの自然と調和した建築などについて話していただきました。

<u>３月の地球人カレッジのお知らせ</u>

ザンビア活動報告（仮題）　報告者：江橋裕人さん　**３**月**２５**日（土）午後７：３０～９：００
（詳細は決まり次第、ホームページ・メール等でお知らせいたします）

チペンビ農村開発ローン・新規事業支援者募集

事業 No.１０：ティグウィリザーネ牛肉販売　　支援金一口５０００円。
各グループから支援者の方に定期的に手紙が届きます。詳しくはＴＩＣＯまでお問い合わせください。

ありがとうございました（敬称略）

★寄付をくださった方々★

江橋裕人　ジャガランタ会　入交秋子　西口幸則　さくら診療所募金箱　渡部豪　美馬文子　大東自動車　美酒美食梵　渡忍　西原房子　福士庸二　傍示桂子　吉田修　橋本綾子　橋本浩一　中野貴志　ヒラオカ薬局　河合栄枝　森章子　高木クニ子　戸井様　秋月忠助　佐伯宣子　副島光江　寺口美香　聖ヤコブ教会婦人会　五十嵐仁　渡海正則　西尾正己　桑原ヒサエ　カリタス女子中学高等学校　野口政司　鈴木一城　安藤悠

★会費を継続して払ってくださった方々★

久米川佐代子　黒田浩　田中直康　中村美恵子　登健太郎　松島拓　美馬安子　副島光江　石井やよい　岩田祥三　金納千晴　白石勝美・久代　高瀬房子　田中純子　坂東正章

★新たに会員になってくださった方々★

中尾正人　杉江博　原田功恵　亀井好秋　小桧山希　三浦洋子

（２００５年１１月１６日から２００６年１月３１日までの事務局入金分：順不同）

※お名前を非公開にされたい場合はＴＩＣＯまでご連絡ください。

【TICO への入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポートしてくださるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎号送付いたします。

【正会員】　12,000 円

【賛助会員】　個人：12,000 円　学生：6,000 円

団体：15,000 円

（通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

振込先：郵便振替口座　０１６４０－６－３７６４９

振込先加入者名：TICO

Ｅメールアドレスをお知らせいただいた方にはＴＩＣＯの各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

ＴＩＣＯの活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

帝人ファイバーが防虫加工衣料を寄贈

㈱帝人ファイバーがザンビアへ防虫加工衣料・スコーロンを寄贈してくれました。

ＴＩＣＯでは、活動現場で関わっている現地の方々へ協力のお礼と、今後の積極的な参加を願い、配布いたしました。

写真は、チペンビ地区で実施している小規模開発ローンプロジェクトに参加している「ツェツェ村自治会」の子どもたちが防虫衣料を着用している様子です。この防虫衣料はマラリアを媒介する蚊を寄せ付けない効果があり、健康を維持するのに役立つと期待されています。

ありがとうございました。

お 知 ら せ

●講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはＴＩＣＯ事務局まで。

●ご寄付のお願い

気が向いたときに少しだけでも寄付したいという方は、下記の口座で寄付を受け付けています。あなたの想いを必ずザンビアまで届けます。

ＴＩＣＯホームページで TICO からの最新情報をご覧いただけます！！

http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/

募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています

（事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい）

郵便振替口座:０１６４０-６-３７６４９　振込先加入者名:ＴＩＣＯ

四国銀行 山川支店（店番号３４４）普通預金 ０１９９６９２

特定非営利活動法人ＴＩＣＯ 代表理事 吉田修（トクヒ テイコ）

TICO ニュースレター Face to Face 第７号　2006年３月発行　　発行人：吉田　修　　編集担当：福士　庸二

【TICO 事務局連絡先】
〒779-3403　徳島県吉野川市山川町前川 212－6　　電話：090-7786-3193　/ ＦＡＸ：0883－42－5527
TICO ホームページ：http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/　　e-mail：zikomo@nmt.ne.jp